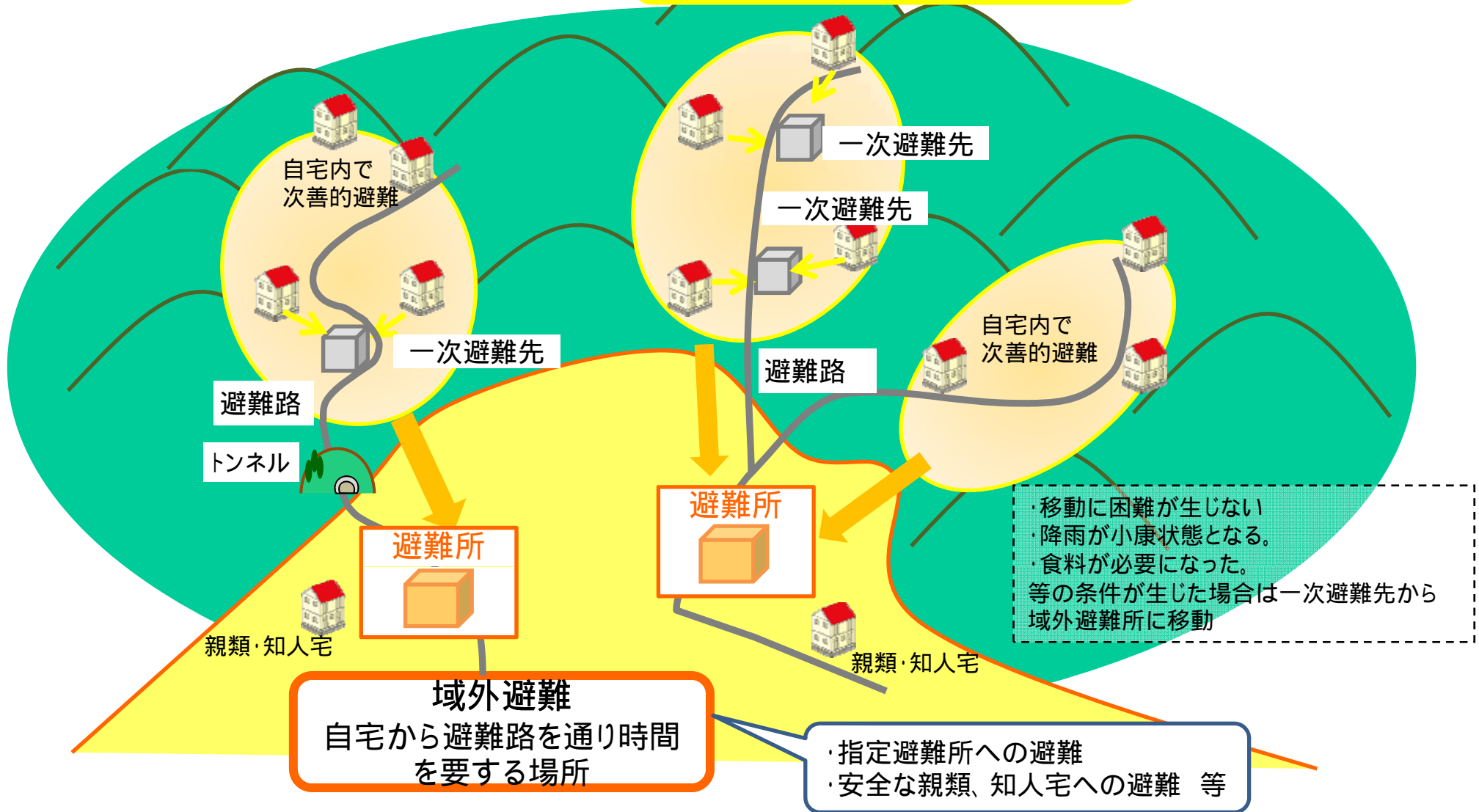
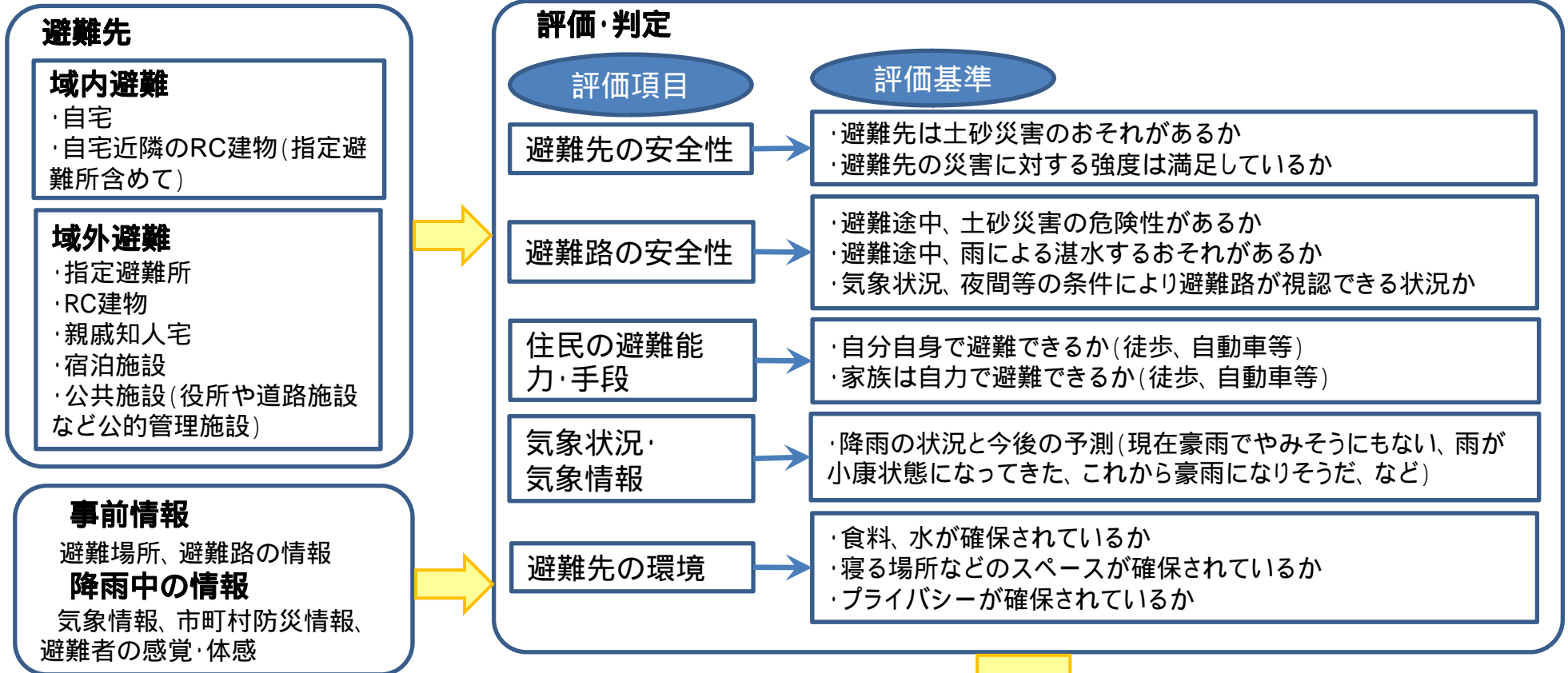


避難行動の評価・判断

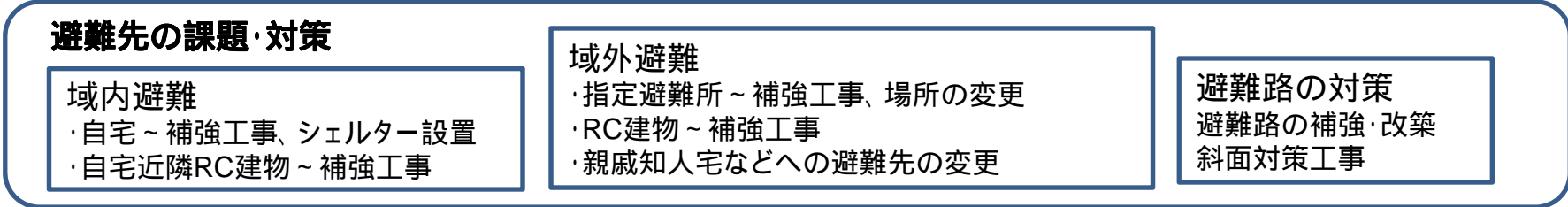
- ・近くのRC建物(一次避難先)への避難
- ・自宅の補強、2階以上への避難
- ・シェルターの設置、避難 等

域内避難
自宅、または自宅から徒歩数分で
避難できる場所

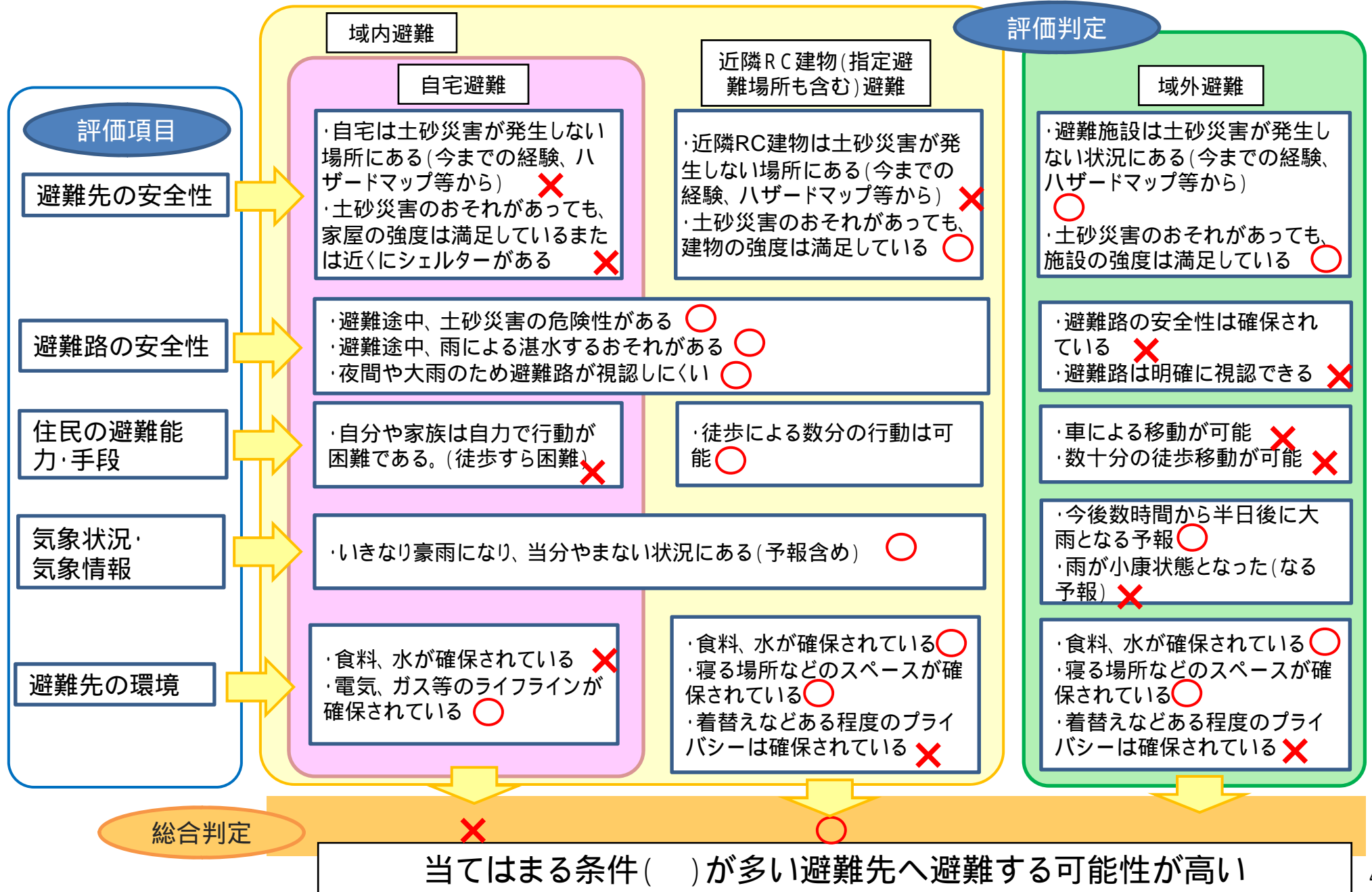




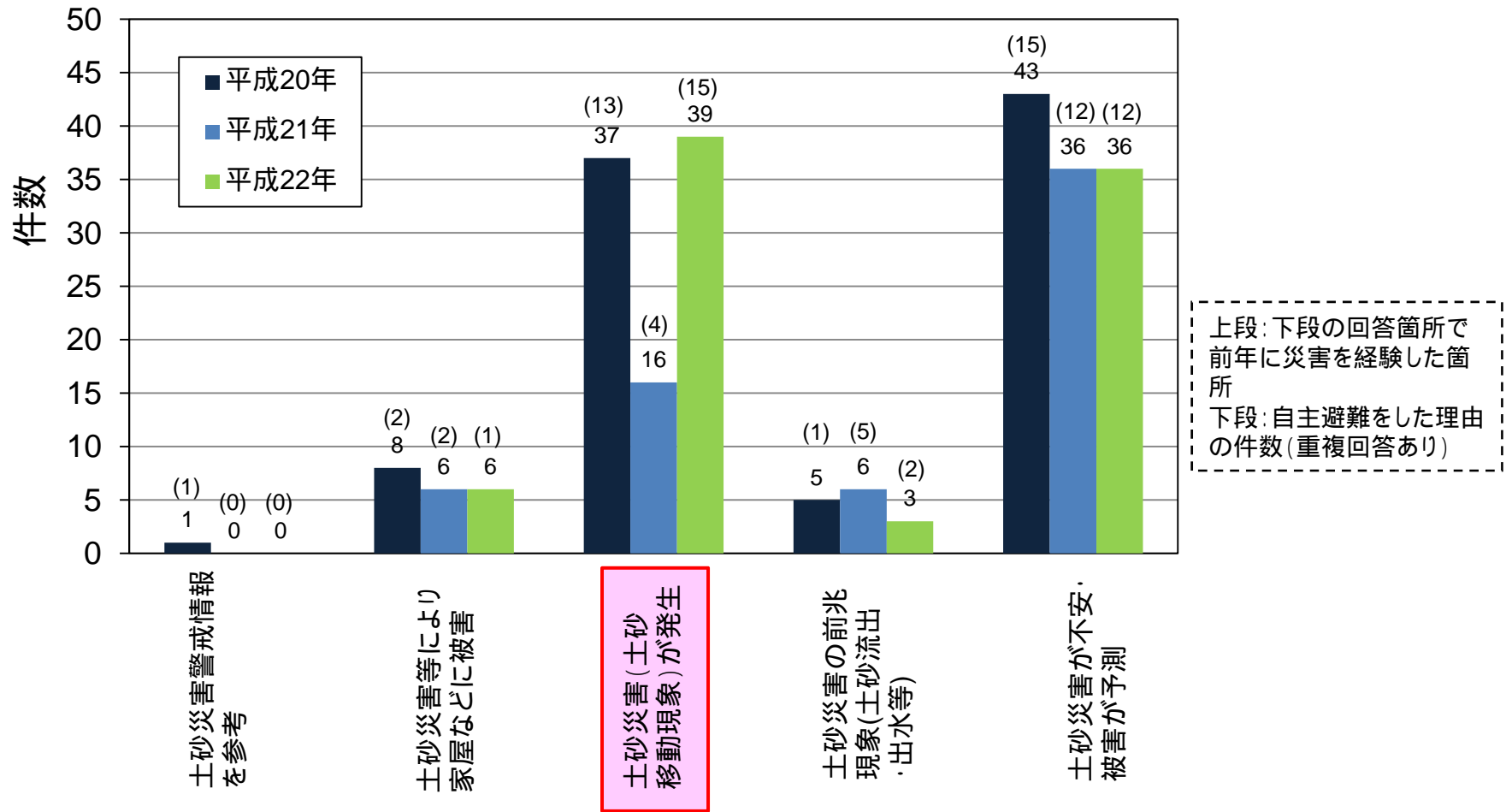
避難行動の難易度や避難先の構造・環境による判断
域内or域外



避難行動の評価判定の一例



住民が自主避難を決断した理由



(平成24年3月国土技術政策総合研究所・筑波大学土砂災害警戒避難に関するデータ解析共同研究の成果を一部改変)
H20～H22に避難勧告等を発令または災害報告等があり、自主避難を行った市町村を対象

住民が自主避難を決断する理由には、土砂災害に対する不安が最も多く、その次に周囲での**実際の土砂災害発生等の情報**による場合が多い。

避難行動の前提条件と課題

- ・理想的な避難行動をとるためには、避難場所が安全であることと、避難場所への移動が安全であることが前提条件となる。
- ・しかし実際には、避難者の避難能力(フィジカル面)、避難路の被災リスク、避難場所の被災リスク、自宅の安全性が明確でなく、身を守るために何が最善の方法かの判断は避難者の感覚に頼っているのが実情。
- ・そのため、土砂災害警戒情報等の気象・災害情報を受け取っても、避難行動は避難者それぞれの判断となり、行動はまちまちとなる。

将来の避難行動改善の方向性の一案

- ・想定される災害に対する、住民の避難能力、自宅の耐性、避難場所の安全性、避難路の安全性について判定するための標準化基準の提示
- ・判定結果をもとに、住民自身がどのような防災行動が可能か自分で検討できるようにする
- ・住民が選ぶことのできる防災活動のオプションも提示。域外避難と域内避難の選択、さらには自宅の補強やシェルター設置による自宅内での避難の可能性についても検討していく
- ・避難のための移動に困難な住民は、避難がとれるような支援の検討が必要である。
- ・避難者が避難の判断として評価基準となる気象情報、**土砂災害発生情報の発信と伝え方**を検討していく